

市長との地域懇談会

滑石地区

次 第

- 1 市長あいさつ
- 2 連合自治会長あいさつ
- 3 議員紹介
- 4 市側出席者紹介
- 5 市政の取組状況等の説明
- 6 地区からのご要望ご提案と回答
- 7 市長との意見交換

開催日時 平成 23 年 11 月 19 日(土)
場 所 滑石地区ふれあいセンター
地元出席者数 27 名



1 買物難民について

上床地区は滑石の西北部高地に位置しており、滑石市場・商店・病院・薬局・支所・郵便局・銀行から 2.5 kmは離れている。長崎バスが利用できるが、上床バス停から団地までは急傾斜で最上段まで 500m、高低差で 70m登らなければならない。夏場のカンカン照りや冬場の寒い時は大変である。近年は高齢化し、マイカー運転も自力で出来なくなり、一人住まいの人も増えている。タクシーを利用する人が増えているが、年金生活者には非常に負担になっている。市内で 5 地区に乗り合いタクシーというものが出来ているようだが、上床のような規模が小さな所に対して何か良い方法がないだろうか。乗り合いタクシーも業者の方もなかなか受けてくれないような規模なので、そのあたりを併せてご相談したい。

【所管課回答】

買物弱者とは、日常の買物をしたり、生活に必要なサービスを受けたりするのに困難を感じる人たちのことで、少子高齢化や人口減少などの影響で身近な場所に買物をするための店舗が無くなり、日常の買い物に困難な状況に置かれている人が多くなっている。経済産業省の推計では全国に約 600 万人いるとされている。

今年度第 5 期介護保険事業計画・高齢者保健福祉計画の見直しに伴い、約 1 万人の方を対象に日常圏域ニーズ調査を実施し、7,535 人にご回答いただいた。この中で買物に関する状況を把握しているので、報告させていただきたい。日用品の買物を「できない」と回答した人が 1,013 人約 25.4%で、この中で一人暮らしの人は 158 人である。買物ができない理由としては、「身体的にできない」が 511 人 50.4%。「外出ができて荷物も持てない」が 251 人 24.8%、「近くに店がない」が 189 人 18.7%という結果だった。

買物弱者を支援する方法の一つとして、家まで商品を届ける宅配サービスがある。現に滑石地区でも宅配サービスに取り組んでいるお店がある。

また、インターネット販売を展開するスーパーも多くある。これらの情報を収集し、滑石・横尾地域包括支援センターにおいて地区の皆様へ情報提供できるような方法について、早急に検討したいと考えている。

全国的に地元商店街において、買物弱者対策として、宅配サービス事業に取り組んでいるところも増えている。商店街単独では運営面で難しい面があるが、地元自治会と連携して実施しようとしている市内の他地区商店街の取り組みも始まっている。このような先行事例を参考としながら、滑石地区の地元商店会において取組みができないか商店会の皆様へ相談したいと考えている。

高齢者福祉分野での買物支援については、要介護認定者は、介護保険サービスの訪問介護で支援を行っている。虚弱高齢者については、生活管理指導員派遣事業においてヘルパーによる支援を行っている。外出支援については、身体状況など一定の要件はあるが、自宅から車の乗り降りが可能な所までの移送支援サービスを行っている。手続き等については、滑石・横尾地域包括支援センターに相談していただきたい。

【関連意見】

北陽つなむ会では、近所の人達がお互いに買物に行こうという事で、2、3人が同じ車に乗って行くことが多いが、もう一つは買物を頼まれて、出掛けた時についでに買ってくるという支援をしている。それ以外に配達してくれるお店を紙に書いて希望者に配って情報を提供し、活用してもらっている。そういうお店が滑石の市場の中にあるので、そういったところを上手く使うといいのではないかなと思う。

【市長】

このような取組みは、市内でもいくつか地域で取り組まれている。北陽地区は早いほうで、そのやり方をあちこちで実施してもらっているところなのだが、現実にそれで助かっている人がおられる。地域で助け合うというのもひとつの小回りがきくやり方で、いくつかのやり方を組み合わせさせてやっていかないといけない。まだまだ色々工夫すべきところや、民間の力も借りないといけないようなところもあるので、相談の場所として地域包括支援センターを活用してほしい。

【関連意見】

買物難民だけではなく、病院通い、楽しみの一つとしてお稽古等に出掛ける事も多い。その度にタクシーを利用する状況で、年金生活の皆さんには負担が大きい。将来的に見て、ひきこもりにならないためには、気軽に掛ける環境作りが大事だと思う。そういう手段がないと掛けるのが億劫になってひきこもりになる事が多いと思う。乗り合いタクシーや乗り合いバスで、滑石地区の何ヶ所かを回っていただく形で実現してほしい。

【市長】

こうした交通の問題は、20年以上前だと地域懇談会でも出てこなかったテーマだと思うが、今は高齢化が進んで、病院や買物に行くときの足の問題が共通のテーマになってきている。その中で長崎の場合は坂が多くて斜面に住んでおられる人が多いため、バス停まで階段を下って行かないといけない。その問題は長崎では広い範囲で課題になっている。

これもいくつかのやり方を合わせながら、時々近所の人を車に乗せていくといった補う

形も必要だと思う。

また、コミュニティーバスがどこまでどのような運営ができるかというのは実は結構難しく、民間のバスとの関係もあるし、階段が多いこともあって、市内を全体的に見ると難しい問題がある。上床の場合も今やりましょうという話にはすぐならないが、いずれにしろ今のルールだけではなかなかカバーできない部分もあるのでこれからの課題の一つとしてしっかり検討したい。

2 ふれあいセンター等図書室の図書の充実について

滑石地区ふれあいセンター及び滑石公民館の図書室の図書の更なる充実をお願いしたい。長崎市立図書館は、市中央部に整備されていて、広く明るく開架式で蔵書もある程度充実し、スタッフも教育されていて、利用しやすい図書館になっている。また、市内各地区のふれあいセンター・公民館等にそれぞれ図書室が設置され、若干の図書配備もあり、併せて市立図書館との間に図書検索・取寄せ貸出等の取扱等により、地域住民にとって図書館利用の便宜も一定程度計られている。しかしながら、センター図書室には希望の図書がない場合が多く、検索・取寄せが出来るとしても、貸出を受けるまでには数日を要する。滑石地区住民が、市立図書館を直接利用しようとするれば、交通費・時間を費やさねばならない。この地区には高齢者が多く、市立図書館まで出向いての利用は、さらに困難である。そこでセンター図書室で直接貸し出しを受ける機会が多くなるように、センター図書室の図書の充実の特段の配慮をお願いしたい。

【回答】

滑石地区の図書室の活用については、市内全域の中でも特に活発なご利用をいただいている。本市には、興善町の市立図書館を核とし、市内の公民館やふれあいセンター等54箇所の図書室がある。これをネットワークにして、年々古い本を整理し、新しい本を配備するよう全体の中でバランス良く偏ることのないように配慮している。その場合、この滑石地区のように、貸出利用者が多いところは優先的に配本をしている。滑石地区ふれあいセンターの図書室は54館の中で4番目に配本するのが多いところになっている。昨年度は、国より特別の予算をもらったので、滑石地区等にも配本を追加した。

長崎市図書館ネットワークにて予約をすれば、早い時には数日程度でお手元に届くことになる。現在の図書館を中心とするネットワークの中には、100万冊あまりの蔵書がある。しかし、中核市の中でも決して多いほうではないので、今後、ますます充実させたいと思っている。市立図書館もオープンしてまだ4年であり、図書はまだ約50万冊しかないが、最終的には80万冊を目指して図書館の充実を図っている。また、ふれあいセンターや公民館についても、貸出しの利用度に応じて配本しているところである。

もしも図書館の中に自分の欲しい本がない時は、窓口に言っていただければ、収集方針に基づき、その本が公序良俗に反するものなどでない限り、購入や市外の図書館からの相互貸借などにより入手して貸し出しを行っている。そういった方法も、もっと利用していただきたい。リクエストの統計もとっているが、まだまだ低調である。せっかく100万冊のネットワークの蔵書があるので、もっと活用していただきたい。今後とも図書室の蔵書の充実を

図り、地元の方に喜んでいただけ、親しまれる図書室にしたい。

3 大園公園の雨による泥水対策について

大園公園はいつも子ども達の遊び場として、またミニグランドゴルフの練習場として有効活用されている。地域住民にとってはかけがいのない公園である。しかし、雨が降るとグラウンドに溜まった水が、道路側に泥水となって流れ出てくる。この道路は学校が近いので通学路になっており、アパートやマンションもあり、住民の生活道路となっている。雨が降らないときはさほど問題がないが、雨が降ると結構水溜まりもでき、道路のほうに少し流れていく。何か改善策があればお願いしたい。

【所管課回答】

大園公園のグランドについては、路面のぬかるみの対策として、本年 9 月に一部修繕を行った。内容としては、表面の土を入れ替えてなるべく下側のほうに勾配を作るとともに、簡易的な側溝があるが、そこに溜まった土砂を上げ、水抜きも改善して、なるべくここに降った雨がこの側溝を伝って道路側溝に流れるような修繕を行ったところである。しかし、やはり簡易的な修繕であるため、市道側に流れる泥水を完全に止める事は出来ていない状況である。その改善策としては、多額の費用がかかるが、フェンスの下側に 10 cm 程度水止擁壁を設置するとともに、その内側に側溝を回して道路側溝に排水するというような抜本的な工事をしないと難しいものと考えている。今朝現地を見たところ、雨でこの公園内には一部水が溜まっていたが、ある程度改善出来ていると思う。

滑石地区においては、県営住宅、市営住宅あわせて改築工事を行っているところであるが、滑石B工区は既に一期工事が始まっており足場も外れて、新しいアパートの姿が見えている。今後、二期三期工事が進んだ中で、最終的にはこの大園公園も全面的にやり替える計画になっている。その際には、こちら側の泥水対策を十分に念頭に入れて改良するとともに、この公園の中の整備内容についても、地域の皆様に知恵を出していただいで一緒に考えていただきたいと思っている。全面改修まで時間はかかるが、修繕に関する事は言ういただければやっていくので、よろしくお願いしたい。

4 バス道路沿いの歩道整備について

この件については 4 年前の市長を囲む会でも要望したが、その時には大きな木の根っこを切っただけ改善してもらった。しかし、まだ歩道が傾斜になっていて、車椅子で病院に行く時や買物など、車椅子を押している人も高齢化していて非常に危険である。ここは通る人が多く、樹木が大きくなっている上、電柱が歩道の右側にあるという事で危険である。電柱を道路側に移動するか、片側に寄せればよいのではないだろうか。

家ではバリアフリーという事で段差を少なくしようとしているが、この道路はそういう配慮が全然されておらず、継ぎはぎで歩道が整備されていると思う。ここは生活道路になって高齢者も多く通っている。電動車椅子で動いている人もいる。外に出るのは高齢者にとってもボケなくて済む大事なことである。家に引きこもらないように、できるだけ道路歩道はきちんとしていただきたい。

もう一つは、樹木が大きくなって春先になると芽が出てくる。そうするとその芽が車を運転する人の目の高さになって見にくい。一度自治会のほうで切らせて欲しいとお願いしたら、自治会では切らないようにということであったため、自治会ではやっていない。たまりかねて車庫の前は切ったりしているが、こういうのは自治会に任せられるのかどうかははっきりしていただければ対応する。任せられないのであれば、そういう細かい管理をしていただきたい。

【所管課回答】

大神宮の交差点から大園に入る道路でちょうどファミリーマートから大野整形外科あたりの歩道のことと思われる。前回ご要望を受けて道路維持課で部分的に補修をしているが、なかなか追いつかない部分もある。また、4年経ったこともあり、傷みが進んでいる所もある。ご要望の区間の歩道整備については、現状では全面的な改修は難しいが、路面が傷んでいる所やくぼみがある所、勾配がある所などで可能な部分は、早急に修繕の対応をしたい。

なお、大園の市営住宅の建替えに併せて歩道も整備されている。今後も建替えに併せた歩道の整備が予定されている。大園公園を作り変える時に、歩道も一緒に整備をするという予定になっている。将来的にはその時期に合わせてこの道路も全面的な改良を考えたいと思っているので、当面は現状で危険な箇所や改修できる部分があれば対応してまいりたい。現場で立会いをしていただき、改修してほしい箇所を具体的に言っていただければ対応したいので、よろしく願います。

また、街路樹の剪定については、みどりの課で基本的に年に一回行っている。一部の区間については自治会の皆様が自分達でやると申し出ていただいているので、お任せしている部分もある。先程会長からお尋ねのあった件については、後ほど詳しい内容をお聞かせいただき、持ち帰って確認して回答させていただきたい。

【市長】

公園と道路の部分についてのお話であったが、これからは新品にどんどん変えていくという事が難しい時代に入っている。あるものを上手に改修しながら、例えば拡幅でなくても一部を広げて離合ができるようにして使っていくというような工夫をしながら使っていくかなければならない時代になっている。一つの施設をできるだけ長く使う工夫をしていく時代に入っているという意味では、皆さんに少しずつ我慢をしてもらいながら、長く使う中で、そこで生まれたお金をまた別のところで使うということをしなないといけない時代に入ってきている。

バリアフリーについては、高齢化で以前よりも浮かび上がっている課題で、できることから少しずつ進めている。しかし、なかなか100点にならない状況である。市内全体を見る中で、なるべく長く上手に寿命を延ばしながら、部品を変えることで長く機能を維持しながらやっていく形で取り組みたいと思っている。新品でできる部分と少し改修しながら使わないといけない部分があるので、ご理解をいただきたい。少しずつ我慢をしていただく部分もあると思うが、危ないという部分についてはしっかり一緒に現場を見ながら対応していきたいと思っている。

〈その他の意見交換〉

※平成 19 年度に要望した項目の経過について

滑石全体の念願として電車を滑石寺川内まで延伸する問題があったが、その後状況を見てみると、現在延長するという考えがほとんどなくなっていくような状態である。例えば、当時はまだ赤迫にパチンコ屋があってその前は空地という事で、条件次第ではまだ延長されるような感じがしていた。現在は両方ともマンションが出来てしまった。だから現在では電車路線の延伸は不可能に近い状態だろうと考えている。

そういう事であれば、電車は出来ませんという事をやはり滑石全体の人達にはっきり言ってほしい。そうしないと滑石の人達の頭の中に残っているので、特に高齢者の方はそうだが、いつかは電車がくると思ったままでいる。最近やっと滑石の入口の 250m くらいに片幅二車線の車が入る様な道路ができつつあるので、まだ電車は来るのではないかというような希望を持ってしまうので、その辺を明確にして欲しい。

2点目は、長崎市の北部地区には総合グラウンドがなく、当時、総合グラウンドを作って欲しいという要求をした。グラウンドの候補地がなかなか無かったという事があったが、その当時、浦上水源池が空いているという事で半分は現在使っていないヘドロがいっぱい溜まって貯水が少ないので、埋め立てて北部地区の総合グラウンドが出来るのではないかとということで検討をするという回答があった。

ところが現在になってみても北部地区の総合グラウンドがいつできるのか全然わからない。この総合グラウンドの件について、その後どうなっているのかを示していただきたい。

3点目は、当時、西側に向けて新しい道路を作るという話があった。左底までつながる予定であると思うが、現在、西町の上のほうまで道がきている。残す間をトンネルか何かでつないでいけば、現在の滑石の朝晩の混雑状態というのが相当緩和されるというのがわかっている。開通すると横尾から来る車がそのまま虹ヶ丘に行くので、毎朝通勤時はバス一台分くらい違って来る。だからその後に片側の道幅を 70 cm ほど広くした。そういう感じでいくらか緩和されたが、現状では昔と一つも変わらない状態であり、今後いつ頃から残りの道路がどのように検討されていくのかお示しいただきたい。

4点目は、あぐりの丘の活性化についてであるが、現在、非常に寂れてしまい何も芳しいものがない。作った当時は専門の業者があり、あぐりの丘を活性化するように色々なものを置いていた。その当時、皆さんは活発にあぐりの丘に行って色々な事を楽しんでおられた。ところが現在、滑石の人達はあぐりの丘に行くという話を聞かないようになった。ただ朝晩散歩したり、体のために走ったりする人が一部いる程度である。それも、歩道を走っていたら草がどんどん生えてどうにもならないという苦情があり、これもお願いをしてある程度とってもらった。

あぐりの丘を活性化するために、そこでできた野菜などを売るという事で、集客を図る方向で取り組んでおられると伺っているが、ああいうものについては、現在浜の町にも安い野菜屋さんがいくらでもできている。その他にも大きなストアの中には安い野菜がいくらでもある。そういう事であればあぐりの丘でやってもなかなか人は集まらないと思う。

だからむしろそういう事ではなくて違う方法でものを考える必要がある。例えば滑石全体

の人にアンケートを取るとか、滑石の自治会長さんを集めてどうしたらいいだろうかと相談をすとか、そういう事もあり得ると思う。あぐりの丘についてはどうすればいいのかというのを十分考えていただきと思う。

【市長】

会長様方には長崎全体の事についてもリーダーシップをとって取り組んでいただいている事についてお礼を申し上げます。こちらからの進捗状況が十分お伝えできていなかった事についてはお詫び申し上げます。広報紙等に載せてお知らせしただけでは、皆さんがそれで分かりましたという話にはなかなかならないというのは現状としてある。自治会長様方はまさに地域のリーダーなので、疑問についてはいつでもお問合せいただきたい。

今日の冒頭にお話しをしたような市政の取り組みの状況やまちづくりについて、大きな流れを十分に皆さんにご説明できていないという事は感じている。まだまだ伝える力が弱いという点も反省をしながら、市民の皆さんと一緒に取り組んでいかないと達成できないので、わかりやすい資料などを作って、これから10年間、こんな方向でいきたいと思いますということについて説明していきたいと思っている。私共もしっかり説明させていただきながら、足りない部分についてはお力を貸していただき、補えるようにしていきたいと思っている。

まず一つ目の電車の延伸の件についてであるが、これについては検討をやめている。先ほど会長様から、赤迫電停から道の尾まででなく、その先の道を拡幅して滑石公民館の前の通りまで拡幅されたから、やはり来るのではないかと期待がまた高まったというお話があったが、あそこは電車を通るようにするならもっと広げないといけない。本当に電車を通そうと思ったら数百億単位の経費がかかる事業になる。現状として用地を買収しながら拡幅して、電車を奥まで持って行くというのは非常に難しい。

それからもう一つは、電車を引っ張って行くのに、車で来て公共交通機関に乗り換える事で中心部に入ってくる車の量を抑えようというのが効果の一つになるのだが、その効果があまり望めないという事が今までの調査で分かってきている。そういう事も含めて、今後電車を延伸するという事については難しいという事で、具体的な検討はしていない。はっきり検討していないと皆さんにお伝えをしたい。是非ご理解頂きたい。

次に、二つ目の浦上水源地の問題だが、昭和57年に水害があった。長崎の場合は基本的に坂があって、まちなかに平地が無かったために、埋め立てて平地を作った。斜面ばかりのまちで、その中で水害に弱いということで、ダムについてもそれまでは水を貯めてそこから水道の水をとるという利水という使い方をしていたのを、いくつかのダムを治水ダムに変えて少し水の量を減らし、そこで水の量を調整する事で川に水があふれ出て家を流してしまうのを止めるために治水の効果に切り替えようという事で進めてきた経過がある。

浦上水源地については治水ダム化して普段の水量を減らしておく中で、これだけスペースが出来るからそこに公園ができるのではないかとということで計画を作ろうという話があった。しかし、実際には、その後色々な要素を勘案した結果、浦上水源地は利水の機能をやはり持たせないといけないというふうになってきている。今の水浸しにならない土地というのは、少し水量を増やさないとけないという事になっていて、浦上水源地にグラウンドを作ることはできないかわりに、しっかり水を供給するダムの機能を使おうという事になっている。

浦上水源地が運動公園としては使えないという事はダム計画の中ではっきりした状況である。

また、総合運動公園については、北部全体で見た時に、長与・時津、琴海地区も含めた中でどういった使い方をするのか、総合運動公園ではなくても、どこかにグラウンドが必要なのかとかいうことなどを考えないといけない。その場合、土地の問題が一番難しい。今はまだ結論も出ていないし、計画が進んでいるという状況ではない。

【所管課回答】

都市計画道路左底滑石線は左底側のほうからは時津の交差点の所まで出来上がっているが、会長様ご指摘の区間は、昨年度測量、簡単な設計を行って、県と協議中である。残されている区間が長崎市の部分と時津町部分がある。これを同時に申請して計画を整えて事業に取り組むということになっている。市・県・時津町による協議を何回もやっているところであり、早ければ今年度にと思っていたが、少し手続に時間を要しており、平成24年度は事業の実施計画の決定をしたい。その後、事業認可を受けて、最速で平成25年あたりから工事に着手できるのではとと思っている。完成目標を平成27年においているが、今その前の事前協議の段階で時間を費やしている。

あと一つは滑石町線で、ご存じの通りある程度形が出来上がってきている。これは県が施工しており、横道工区の580メートルについては平成23年度が完成予定であるが、いくらか支障があり、来年度にかかるのではないかと聞いている。横道交差点周辺の交通の流れは随分良くなったと思う。残った部分の大神宮工区について、以前に県のほうから休止するとの説明が地元になされたが、改めて県において検討がなされ、滑石町線の大神宮工区についても、横道工区に引き続き整備を行いたいとの事である。近々地元の皆様に説明会等が行われるのではないかと情報を得ている。

【所管課回答】

先程、会長様からご質問のあった路線についてであるが、小江原北高方面から西町側のルートとして現在道路建設課が整備している路線からさらに虹が丘から滑石、滑石から横尾、横尾から時津といったルートを念頭において質問されたと思う。横尾方面等については交通企画課のほうでご説明した通りであるが、現在の進捗としては、北高の少し下側に位置する西町側に向かう市道油木町西町線については、今年の3月末に開通し、供用を開始している。これから分岐して、虹が丘方面に向かう道路が虹が丘町西町1号線である。これは延長が大体2km程の道路であり、幅員が10mで片側に歩道がつくという構造である。現在の進捗具合としては用地のほう概ね95%くらい進んでおり、順次工事を進めているところである。工事は西町側から着手して概ね700m先まで進んでいるという状況で、全体の事業費の割合からの進捗としては約33%であるが、用地が大分片付いてきたので今後は本格的な工事に着手していくことになる。

先程トンネルのお話があったが、虹が丘町西町1号線の約600mの区間についてはトンネルによる施工と考えているところである。また、その先の滑石の横の大園側の市道であるが、こちらの交差点については道路維持課のほうで施工しており、右折車線を設置している。

【市長】

道路については特に用地の購入をしなければならず、用地が購入出来たら大体 9 割方できたという事で工事自体はそんなに期間もお金もかからない。用地を買うのにはかなり時間がかかるのだが、その間、なかなか皆さんに見えないという事がある。また、虹ヶ丘のほうの西町に繋がる道路などは、滑石の皆さんも使うのだが、離れていてこちらの情報が皆さんに入らず、少し分かりにくいところもあると思うが、実際には色々と進んでいる状況である。

もう一つ、あぐりの丘の件でお話があったが、オープンした時の最盛期は 47 万人くらいの皆さんが来てくださったが、それがずっと減って行って、平成 19 年には 16 万人に減った。あぐりの丘の経営形態も変っている。そもそもあぐりの丘というのをどういう場所にしようかという事で、市内のプロジェクトチームを作って色々検討する中で、一つは子ども達も含めた食農教育、人間と自然の関わりを体験する場所としてまちの中に必要だと考えている。あそこはまちの部分もあれば少し周りに少なくなってしまった人間の手が入った山、里山の部分もある。外には広大な自然の山もあるという事で、そういう三つのゾーンに分けて、子ども達や保護者の皆さんがご家族で自然とのふれあいが体験できるような場所にしようとしている。里山のゾーンも市民の皆さんの力も入って、田んぼや落ち畑等色々できている。その中で昨年利用者が 23 万人まで増えた。今年はまだ数字が出ていないが、同じような数になるのではないかと思っている。家族で行くような人達もいらっしゃるという事で、あまり違和感のない遊具や、水と子ども達がふれあえる広場などというものを今年はやっている。

自然との関わりを体験する場所が本当に最近無くなってきている。あぐりの丘は市内でも他にない施設である。自然の力や土に触る楽しみというのを、まちなかで学校単位でそれぞれ畑を借りてゆったりしておられるが、そういう場所としてあそこは必要な場なので、今後とも色々な工夫をしていきたいと思っている。

※長崎市の将来像について

テレビで平和関係の市長の顔はたくさん見てきたが、今日は市の財政や行政について市長から説明があり、十分理解できた。長崎市では 10 年以内に人口が 30 万人台になるのではないかという話をきいているが、市として人口減少をどうお考えか、将来長崎をどのようにもっていかうとされているのかという事についてお聞きしたい。

人口が減少すると、市の財政収入も減るだろうし、雇用も減る。そうした場合に財政の負担はどういう形になっていくのだろうか。高齢化するにつれてどんどん負担も増えるし、今後観光などへ投資は減るのではないだろうか。将来の財政を潤す施策などについてお聞きしたい。

【市長】

是非、人口減少の話もお話しする機会があればと思っていた。人口減少は長崎で昭和 50 年から昭和 60 年の間の 10 年間、そこから 60 年くらい先は下り坂である。だから、四半世紀くらいはずっと人口は下り坂である。合併があって増えたが、実際には下り坂の状況にある。日本全体がここ数年の間に人口減少の局面に入っている。100 年ごとの区切りで見

ると、西暦 2000 年までの 100 年間に大体 4000 万人台くらいから 1 億 2000 万人台 3 倍近く増えている。それがこれからの 100 年でまた元の数字に戻るのではないかとされている。そういう意味では、ちょうど山形のピークの所に私達は暮らしているということになる。だから今、年金や医療保険等の新しい制度を作らないとやっていけないという事になる。雇用も大変で働き口が少なくなり海外から人出を入れないといけないのではないかと議論が始まっている。

これはまさに大きな流れの中での高齢化で、若い世代がない。そういう中で仕組みを変えなければいけない時期にきている。実際に色んな仕組みが変わり始めていて、この前も高齢者の医療保険の仕組みを変えたが、前の制度のままだと国保だけでやっていけないから、新しい制度を作ることになった。野田総理がこの前おもしろい事を言っておられたが、要するに胴上げ見たいな状態から騎馬戦みみたいな 4~5 人で 1 人を担いでやるという時代になって、これから肩車の時代になる。まさにそういうふうに高齢者を支える人達が少なくなって変化してきている。それにあわせて仕組みを変えていかないといけない時代にきている。だから高度成長の時のように、皆が同じ方向を向いてがんがんやってスピード上げるという事だけ考えれば前に進むという時代ではなくて、新しいやり方を見つけながらやらないといけない時代にきている。その中で人口減少については二つの事を考えないといけないと思っている。

一つは人口がなるべく減らないようにするという事である。それについては 2000 年の国勢調査、10 年前の国勢調査をベースに長崎市の人口を予測したのがあるが、その時に 2010 年には長崎市の人口が 41 万人くらいではないかと言われていた。それが実際には今 44 万人くらいである。これは数字の精査が必要だが、予想されていたほどまだ極端には下っていない状況である。その中で原因を調べると、例えば昭和 40 年代に、近隣の時津や長与や諫早に人が流れて行って長崎のまちの人口減って行く状況があったのだが、今はそれが少し止まっている。前は生まれる人が亡くなる人よりも多かったのが増えていたのだが、だんだん生まれる人が減って行って、生まれる人よりも亡くなる人の方が多いという事で人口が減っている。もう一つは働く若手が外に出ていくという状況などがあって、そういうことが重なって長崎の人口減少というのが起きている。

その中で一番防げるのは、雇用を増やして、働きたいという若い人達が長崎に留まれるようにするという事が大事で、まず地場産業をしっかりともらう。地場産業が駄目だとその分雇用が減るので、それをしっかりと支えていく。それから企業誘致、新しい企業を持ってくるという事で雇用が生まれる。長崎の場合は水も土地も無い所なので、大きな自動車工場がくるというのは非常に難しい。長崎の女性は非常に優秀だという事は評価されていて、コールセンターがくるのはそういう理由がある。男性を中心にした製造業は非常に難しいというのは、これまでの交渉の中で実感として持っている。

もう一つは、地場産業の活性化と企業誘致とともにもう一つ新しい産業を興していく努力をしないといけないという事である。今、県等と一緒に新しい企業を育てていく試みもやっている。これは雇用を増やすという事である。

そしてもう一つは人口減少を止める。減るにしても減り方を少なくする。人口が減ったと

してもその分を住んでいないけれど、交流人口を増やすことで補おうという考え方で、これは例えば観光客を考えてもらうと分かりやすいと思う。要するにその日だけ長崎に泊ってもらう、その日だけ市民になってもらうという感じで、ご飯を食べてもらってお金を落としてもらう。そういった人達がたくさん出入りする事で長崎のまちの活性化というのを、人口減少をそこで補っていく。その考え方もすごく大事になる。それはなぜかというところのまちでもできることではないからである。長崎の場合は色んな観光としての力があるので、それをしっかり活かす。前は中国からの観光客が来るのは考えられなかった。大きなマーケットが隣りにあるという事を考えないといけない。そういう人たちが長崎に来てお金を落としてもらうにはどうしたらいいかという事を、知恵を絞って色々やっている。

交流人口の増加というのは、決して悲観ばかりしているのではなくて、長崎にはチャンスがあるという事である。そういう強みやチャンスをいかに活かすかということに集中しないといけない。弱い所を見ると人口が減っていくし、あれもこれもない、土地がないとそんな事を言っても前には進まない。長崎は西の端だけど中国に近いじゃないかというその強みを生かそうという工夫をしていく事で補っていく。雇用を増やすという事、交流人口を増やすという事、その中には留学生を増やすという事もある。単純に人口を増やすという事だけじゃなくて、色んな世代の人達が入ってきて、例えば大学が無くなると大学生がいなくなる。そうすると若い人がいなくなって、活気がなくなる。

そういう交流人口というのは、まちの活性化に大きな意味を持っている。これも強みとして活かしていかなければならない。人口が少しずつ減って行く時代がしばらく続いたとしても、その中でいかに活気を保っていくかというのが非常に重要で、10万人の都市と50万人の都市では、必ず50万人の都市に活気があるのかというのはそうでもない。今からは特に、一番高齢化の影響を受けるのは東京等の大都会だと言われている。地方は結構慣れているけども、都会はこれから一気に進んでしまう。

きちんとその人口に応じた活気を持ったまちになっていく中で大事な事の一つは、市民の皆さんのつながり、地域をつなぐりや行政とのつながり、地域の中にある学校や企業・行政とのつながり、そのようなつながりを持ったところが今非常にうまくいっているという事である。つながりが無い、ばらばらなところが苦労しているという事が、色んな所で明らかになっている。

その意味で、今日ご参加いただいた皆さんが、地域の中でつながりを保っていくために、つながりを作っていくためにご苦労をしてくださっている事は非常に大きな力になる。まちの暮らしやすさにつながる。まちの活気という見方をした時に、まさに今皆さんにいただいている事が非常に重要な役割を担っている。人口という側面だけから見るとではなく、住んでいる人が暮らしやすく、みんなで助け合っているまちというのが大事である。

とても印象的なのは、関東大震災があった時に、すごく大変なことがあったのだが、その時にも、順番に並んでいる日本人を見たある有名な人が、自分はこういう人達と暮らしたい、こういう人達と一緒に生きたいと言われたという言葉がある。まさに今回東北はこれを示したわけだが、長崎のまちもお互いに助け合って、自分はこんなまちに暮らしたいと思うまちを目指すのも、一つの人口減少とか数字の面とは別に、ものすごく大事な側面で、人間とし

ての目標の一つでもある。

今日は、北陽地区の取組みの話をしていただいたが、皆さんが色々な工夫をして、自分達が出来た事は自分達ですと言ってくれました。そのような気持ちを持った皆さんが、自分が出ることやしようというまちになっていくことはとても大事な事なので、皆さんの話を聞いて非常に心強く思った。自分たちも暮らしやすさを作ろうと思っているから、もっと情報がほしいというお話もあった。また、市役所に対してやってほしいという事もあった。

今日のこの時間は、私は非常に嬉しい気持ちで聞いていた。お互いにできる事は違う。地域でできることで、市役所が出来ないことはたくさんある。市役所は全然万能ではない。市役所が出来た事で地域ではできない事もある。力を合わせて進むというのが非常に大事なので、是非、これからも一緒になってまちを作る動きを進めて、そして次の世代にバトンを渡したいと思う。これからもご協力をお願いしたい。